

H26 授業改善プラン 中学校 第2学年 国語

内容を的確に読み取り，根拠を明確にして自分の考えを述べる力を育成する。

指導について

- ・ 調査問題概要／市正答率

『文章の構成や表現の仕方などについて，根拠を明確にして自分の考えを書く』問題

H26 全国学力調査問題／B1三 市正答率 47.9%

- ・ 課題

文章や資料の内容を的確に読み取り，根拠を明確にして自分の考えをまとめる力が十分に身につけていない。

- ・ 指導の手立て

「説明的な文章」や「意見を述べる文章」の教材として扱うだけでなく、「文学的な文章」や「古典」，「話し合い」などにおいても，根拠を明確にしてまとめることを習慣化し，自分の考えを述べる力を育成したい。

【教材名 古典「平家物語」】

【指導計画と評価】

時	指導計画	指導の手立てと留意点 / ☆評価 【使用する資料等】
1 2	○平家物語の解説文や「祇園精舎」の文章を読み，時代背景や武士の生き方について知る。	・平家物語の概要についてまとめ，冒頭部分を暗唱することで，平安時代の人々の価値観を知る。 (ワークシート②で必要になる。) ☆平安時代の武士の生き方について，興味をもって知ろうとしている。(関心・意欲・態度/観察)
3	○「那須与一」を表現の工夫に注意して音読し，内容を把握する。 表現の工夫 ・七五調 ・対句 ・擬音語 ・助詞をつけない表現 等	・表現と語り口のおもしろさを味わわせるために，繰り返し音読をする場を設定する。 ☆表現の特徴を理解して音読している。 (読むこと/観察)
4	○与一の置かれた状況や心情を読み取り，扇を射るときの与一の気持ちを，根拠を明確にして書く。 (条件) 1 現代語訳から根拠を探して書く。 2 80字～100字	・両軍がにらみ合う状況や，与一の言葉に注目することで，与一の気持ちを考える手がかりとなるようにする。【ワークシート①】 ☆現代語訳から根拠を読み取り，与一の気持ちを書いている。(読むこと/ワークシート・発表)
5	○「那須与一」と「弓流」の内容をつかみ，両者を読み比べながら，当時の武士に対する自分の考えを書く。 (条件) 1 当時の武士の生き方に触れて書く。 2 140字～160字	・与一が命令を断らずに男を射た行動に注目させることで，当時の武士の生き方について考える手がかりとなるようにする。【ワークシート②】 ☆当時の武士の生き方を読み取り，自分の考えを書いている。 (読むこと/ワークシート・発表)

平家物語

与一の置かれた状況や心情を読み取ろう。

○ 与一の置かれた状況

日時	(旧暦) 二月十八日 酉の刻ごろ (午後六時ごろ)
天候	折から北風が激しくて、磯に打ちつける波も高かった。
平家は	沖で、舟を(海上)一面に並べて見物している。
源氏は	陸地で、馬のくつわを並べて見守る。

○ 扇を射るときの与一の気持ちをまとめよう。

※現代語訳から根拠を探す。

※八十文字以上百字以内で、原稿用紙の使い方に沿って書く。

<p>・「どうか八幡大菩薩よ、我が故郷の神々、日光の権現、宇都宮大明神、那須の湯泉大明神よ」と、射る前にたくさんの神に祈っていることから、頼れるものは全て頼っても扇の真ん中を射たいという気持ち。(九十四字)</p> <p>・「これを射損じるものならば、弓を切り折って自害して、人に二度と顔を合わせるつもりはありません」ということから、扇を射ることができなかつたら自害するという、決死の覚悟で扇を射ろうとしている。(九十四字)</p> <p>・「沖では平家が、舟を海上一面に並べて見物」し、「陸上では源氏が、馬のくつわを並べてこれを見守」っている。両軍から注目を浴びているので、絶対に扇を射損じることはできないという重圧を感じている。(九十五字)</p>

○ 弓を射た結果

結果	<p>鏑矢は 海に落ちていった。</p> <p>扇は 空へと舞い上がった。しばらくは空中にひらめいていたが、春風に、一もみ二もみもまれて、海へさっと散った。</p>
平家の様子	沖で、舟端をたたいて感嘆した。
源氏の様子	陸で、箆をたたいてはやしたてた。

平家物語

「那須与一」と「弓流」を読み比べ、当時の武士の生き方について考えよう。

○ 登場してきた平家の武士

歳	五十歳ほど
いでたち	黒川緘の鎧を着て、白柄の長刀を持っている。
行動	平家の武士 扇を立ててあつた所に立って心澄まして舞い始めた。
行 与一	中差を取って(弓に) つがえ、引き絞ってそいつの首の骨をひょうふつと射て、船底へ逆さまに射倒した。
平家の様子	音もしない。
源氏の様子	箆をたたいてどよめいた。(「あ、射当てた。」と言う人もいれば、「情け知らずだ。」と言う者もいる。)

○ 当時の武士の生き方とは、どのようなものだったか、「那須与一」と「弓流」から読み取り、考えたことをまとめよう。

※当時の武士の生き方に触れる。

※百四十字以上百六十字以内で書く。

め	た	声	従	扇	も	た	
た	の	の	い	を	の	。	こ
日	だ	た	首	射	の	与	の
常	と	め	を	た	、	一	時
の	考	に	射	。	義	も	代
中	え	、	た	平	経	、	の
で	ら	自	。	家	の	扇	武
日	れ	分	つ	の	命	を	士
々	る	の	ま	男	令	射	は
精	。	命	り	が	に	る	、
一	今	を	、	出	背	こ	主
杯	よ	か	軍	て	く	と	従
生	り	け	の	き	こ	を	関
き	ず	て	誇	た	と	一	係
て	っ	常	り	と	は	旦	が
い	と	に	や	き	許	は	絶
た	、	戦	主	も	さ	辞	対
の	張	っ	君	命	れ	退	で
だ	り	て	の	令	ず	し	あ
。	詰	い	名	に	、	た	っ

※命令に背けない武士の主従関係を読み取り(教P97)に書いてあるので第1時の読み取りをしつかり行う。)、自分の考えが書いてあればよい。扇と人を射ることを比べ、非情さに触れてもよい。